

2015年2月14日(土)～15日(日)

参加者 右田(L)、佐々木、嶋原、岡本(記録)

今年の雪山はあまり天候に恵まれない、が、今回の日曜日は青空が見れるだろうと期待し出発。順調に醒井養鱒場までくるが、この先は除雪されていない。幸い前を地元の車が走っているの付いていく。途中から道が分かれ、そこからは嫌がる嶋原さんに、車の底を雪でこすりながら、何とか樽ヶ畑の登山口まで行ってもらい、皆で雪掻きをして駐車スペースを確保。準備が出来たところで、重いザックを担ぎ、全員スノーシューを装着し出発。



踏み跡が付いている。猟師か、わかんなどはつけていないようだ。暫く行くと前から人が来る。どうやらこの踏み跡の主らしい。登りに掛かる手前まで行ったが、踏み跡も

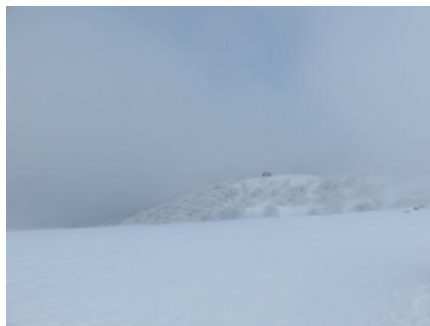
無いので引き返すとのこと。ここからは我々4人だけの世界だ。新雪を踏み分け進んでいく。曇っているが、視界は悪くなく五合目までは順調に進む。その後、樹林帯には所々にテープもあり何となく分かるが、樹林帯を抜けてしま

と目印は何もなく、ガスも出てきて視界があまり利かない。途中、お虎ヶ池へ回り込むところを、こちらの方が近いかと、そのまま尾根筋に行く。前に雪庇が見えた。その下は



雪原なのでそのまま雪庇の上に行く、と、突然、先頭に行く右田さんが消えた。

覗き込むと、数メートルの落差なので心配はないものの、右田さんが半分くらい雪を被っている。落ちるのは初めてだったようで、中々面白い体験が出来たと、ご満悦。標高差のあるところならこんな呑気なことを言っておれないが、緩やかな広い尾根で、ご愛敬



みたいなものかもしれない。それより、どうもこの尾根は方向が違う感じで、夏道のある方向へコースを変える。少し下り、また前に見える尾根まで登る。尾根に出たとき、

少しガスが切れ谷を挟んで向こうに目的地の避難小屋が見える。ほっとすると皆元気になり、今度は間違わず経塚山をトラバースして小屋にたどり着く。一部壊れた羽目板から入る雪が少し積もっている雪を掃除し、小屋の中にテントを張り、乾杯！ 延々と飲み会が続く。

明るくなってきたので起きる。時間は7時を過ぎている。が、外はガスで何も見えない。今日は晴れのはずなのに・・・その内晴れるかと願いつつ、ゆっくりと朝食を取る。なかなかガスも消えず、風も強いまだ。しかし、せめて山頂だけへは行っておきたい。9時に近くなってから出発する。

ホワイトアウトに近い状態なので、少しの時間も長く感じる。夕べは小屋に守られぐっすり眠り、思いっきり飲んで、食って、体力十分なことと、屈強(?)の4人組なので、順調に進んでいく。10分程で経塚山を越え、そこから20分強で山頂に着く。景色は全く見えず、風も強いことから、証拠の記念写真だけ撮り、直ぐに下山開始。



何も見えない広い稜線を磁石を頼りに歩く。ともかく尾根からの下山位置だけは間違わないようにと、少しガスが薄くなった時に地形を確認し、恐る恐る進む。突然少し離れたところから声が聞こえる。10人以上の大パーティーが少し先に見える。今日は、僕の高校時代のワングル部が、府岳連理事で部の顧問に連れられ霊仙山に来ることになっていた。ガスの中の広い雪原での感激の対面だが、何と言ってもこれで下山位置の不安が解消、景色は見えないものの、後はるんるん気分での下山だ。それにしても、今日は季節風も収まり天候が回復するはずなのに、一体誰が原因なのか・・・また、リベンジしないといけない山が増えた。が、小さな事件もあり、中々楽しい山行でした。嶋原さん、樽ヶ畑の登山口まで無理に入って頂いて、本当に助かりました。

#### 参考タイム

14日(土) 8:00 嶋原宅→10:55 樽ヶ畑登山口(11:15発)→11:45 汗ふき峠→  
12:55 五合目→14:40 経塚山避難小屋

15日(日) 7:20 起床→8:50 出発→9:00 経塚山→9:25 霊仙山頂→10:25 五合目  
11:15 登山口